

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第18週 (4/30-5/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		18週	17週	16週	15週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	15	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	28	24	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/30-5/6	4/23-4/29	4/16-4/22	4/9-4/15	4/23-4/29
			18週	17週	16週	15週	17週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	12 0.80	3 0.17	5 0.28	28 0.22
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.13	0 0.00	2 0.11	65 0.51
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19 1.06	39 2.60	49 2.72	43 2.39	381 2.98
	感染性胃腸炎		43 2.39	115 7.67	103 5.72	68 3.78	605 4.73
	水痘	↓	2 0.11	19 1.27	7 0.39	12 0.67	71 0.55
	手足口病		0 0.00	0 0.00	2 0.11	1 0.06	4 0.03
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	18 0.14
	突発性発しん	↓	9 0.50	17 1.13	13 0.72	13 0.72	60 0.47
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	1 0.06	2 0.11	5 0.04
	流行性耳下腺炎		2 0.11	2 0.13	2 0.11	1 0.06	17 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		5 0.18	16 0.67	31 1.11	18 0.64	111 0.54
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	3 0.60	1 0.20	16 0.47
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	3 0.33

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	水痘(入院例)	女性	30歳代	臨床診断
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出	-	-	-	-

・第18週は、結核2件(66)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(7)、水痘(入院例)1件(1)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

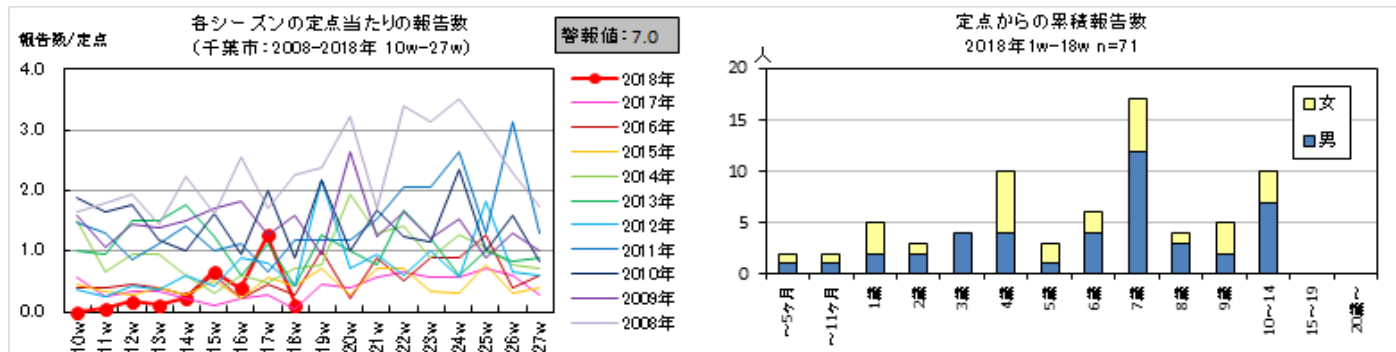
定点当たり報告数 第18週のコメント

＜水痘＞前週より減少し0.11となった。過去10年の同時期と比べると僅か。
 ＜突発性発しん＞前週より減少し0.50となった。過去10年の同時期と比べると少ない。

■ トピック ■

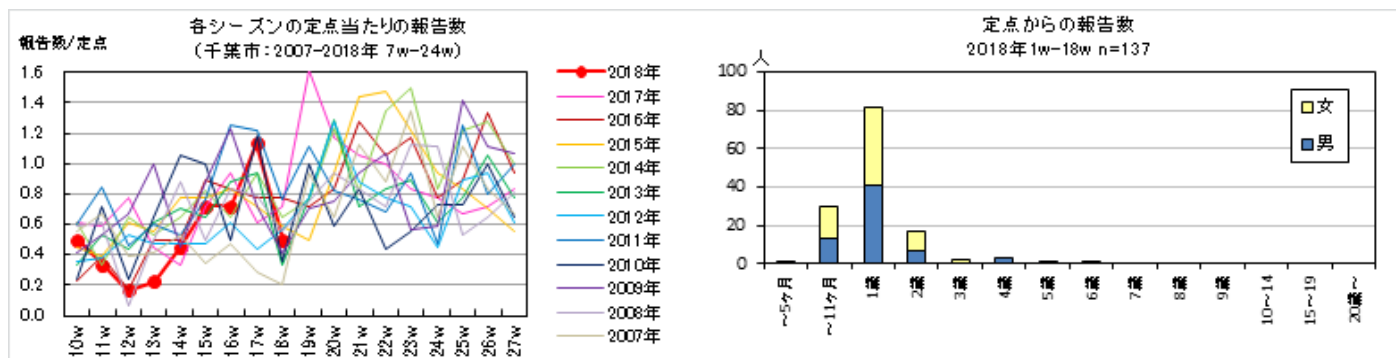
<水痘>

全国レベルの第17週は、過去10年の同時期と比べると僅かなレベルとなっています。都道府県別では埼玉県、宮崎県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第18週は前週より減少し、過去10年の同時期と比べると僅かなレベルとなりましたが、これまでところ例年にならない増加傾向にあるので、今後の動向に注意してください。区別の発生状況は、若葉区(0.5/定点)で最多で、同区の10歳代前半で発生報告がありました。2018年第1週から第18週までの累積報告数(n=71)によると、性別では男性が60.9%(43名)、女性が39.1%(28名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(23.9%:17名)、4歳(14.1%:10名)、6歳(8.7%:6名)の順で多くなっています。



<突発性発しん>

全国レベルの第17週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では宮崎県、大分県、徳島県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第18週は前週より減少し0.50となり、過去10年の同時期と比べると少なめとなりました。例年の発生動向によると今後は増加傾向にあります。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最多で、同区の6~11か月で多く発生報告がありました。2018年第1週から第18週までの累積報告数(n=137)によると、性別では男性が48.4%(66名)、女性が51.6%(71名)で、年齢階級別では1歳(59.9%:82名)、6~11か月(21.9%:30名)、2歳(12.4%:17名)の順で多くなっています。



<麻疹>

全国レベルは第14週以降沖縄県で発生したことにより増加しており、第17週は過去5年の同時期と比べると最も多かった昨年のレベルに近付きました。都道府県別では沖縄県、愛知県、東京都の順で多く報告されています。千葉県ではこれまで発生報告はありませんが、関東近辺では東京都で9件の他、埼玉県及び神奈川県で6件、茨城県で3件の発生報告があり、特に神奈川県は第18週は全国で最多の5件の発生報告があるなど、関東近辺でも次第に感染が広まりつつある状況となっています。

